

日刊 動労千葉

86. 2. 1

No. 2154

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

当局動労革マル一体となった許すな

2・2集会突破口に 線見阻止第二波突入

二九日から突入した怒りの順法闘争は、当局・動労「本部」革マル一体となつた全ゆる庄殺体制をはねのけ、連日整然かつ、断固として打ちぬかれていた。全組合員の糸乱れぬ統一行動にあせりかられた当局は、「回復運転しない乗務員は全員降ろせ」と、まさに正常な運行確保より処分優先という凶暴な攻撃を開始している。これが当局の本音だ。全組合員がさらに怒りに燃え、長期・非協力・順法闘争を貫徹しよう。

追いつめられ本音を 暴露した当局

わが動労千葉のつけ入るスキを与えぬ断固かつ整然とした非協力・順法闘争は、日を追うごとにギリギリと当局をしめあげている。初日から悲鳴をあげていた当局は、完全に追いつめられ、錯乱し、運転席に乗りこんできて、「ノッチをもつと入れろ」などと運転妨害を行い、あげくに「回復運転しない乗務員は全員乗務から降ろせ」「そのため電車が止まってしまかまわない」と、凶暴な本性をむき出しにした攻撃をかけてきている。

「違法な順法闘争」「サボタージュ」「正常運行の確保に全力つくす」などと言っていたのはどこの誰だ。労働者を処分するためには、電車が止まろうが、安全がどうなろうが関係ないというのが本音ではないか。これほど労働者・乗客を愚弄した話があるか。
徹底的に暴露・弾劾しよう。

闘争破壊・首切り推進の 動労革マル許すな

われわれは、動労「本部」革マルを断じて許すことはできない。
「労使共同宣言」で、スト根絶を叫ぶ動労革マルは、動労千葉の順法闘争に対しても当局と完全に結託し、闘争破壊に

血道をあげている。

すなわち、我孫子線で当局は、動労千葉の乗務員の行路を全て途中の我孫子駅で運休とし、それより先は特発列車を仕立てるという全くデタラメな運行変更を行っている。その結果、たとえば上野駅行きの列車に乗った乗客を我孫子で一旦下ろし、乗りかえさせるということすら平然と行っているのである。しかも、これを全部動労千葉の責任であるがごとく悪宣伝しているのである。これ自身、絶対に許すことができないが、この特発Ⅱ闘争破壊列車を運転しているのが全て動労「本部」革マルなのである。

これが許せるか。業務移管の線見訓練も全て動労「本部」革マルでやると言う。当局と一体となり、闘争を破壊し、労働者から仕事を奪い、首切りを積極推進する革マルを断じて許すな。

第二波ストで勝利の突破口 切り拓け

われわれの怒りは、ますます燃えあがっている。いかなる弾圧・妨害があろうとも二十名の仲間を必ずつつみこみ、守りきらねばならない。

怒りの順法闘争Ⅱ・Ⅱ第二波突入集会―線見阻止闘争―第二波ストと、この一カ月、まさに怒りの火の玉となって、勝利への突破口を切り拓こう。